

2025年度 同志社大学大学院 司法研究科

後期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の（設例）を読んで、XおよびYの罪責について論じなさい（ただし、建造物等侵入罪および特別法違反の点を除く）。なお、1の事実においてXがA店の商品であるフォアグラを密かに持ち出して店舗を出た行為が窃盗既遂罪に該当することを前提として解答すること。（配点：100点）

（設例）

1 Xは、以前から食べたかったフォアグラを万引きしようと思決し、スーパーマーケットA店（店長B）に赴き、某日午後3時ころ、A店の商品であるフォアグラを密かに持ち出して店舗を出たところ、これを現認したA店の警備員Cに呼び止められ、逮捕されそうになった。Xは、上記フォアグラをその場に置いて逃走し、Cは、Xを追いかけた。

XがCに追いかけて逃走しているところに、偶然、Xの友人であるYが通りかかったため、Xは、Yに対し、「助けてくれ」と言った。Yは、その様子を見て、Xがどこかの店で商品を盗んで見つかり、店の警備員に追跡されていることを察し、Xを逃がしてやろうと考え、「分かった」と答えた。同日午後3時5分ころ、A店の店舗から約100メートル離れた道路上において、XとYは、互いに意思を通じ、XがCに逮捕されるのを防ぐために、こもごもCの頭部や顔面を力任せに何度も殴る蹴るなどした。Cは、これにより生じた脳挫滅が原因で死亡した。XとYは、Cを殺害する意思を有していなかったため、Cが死亡したのを知って驚き、慌ててその場から逃げた。

2 その後、Xは、Cが高級な腕時計をしていたことを思い出し、その腕時計を持ち去って売却しようと考えた。Xは、Yに気づかれないように一人で、Cを死亡させた現場に戻り、同日午後3時10分ころ、Cが身に付けていたCの腕時計を持ち去った。